

遠隔同化

二人の耕平

小林耕平 × 高橋耕平

List of Works

ROOM 2 同化の試み step2

「高橋の指南にもとづく同化の試み 小林の場合」

指南1 | 既製品とドローイングの入れ替え

*記号的に過ぎるドローイングを立体に起こす。既製品を外に、イメージを中にすることで、交換をさらに押し進めてみる。

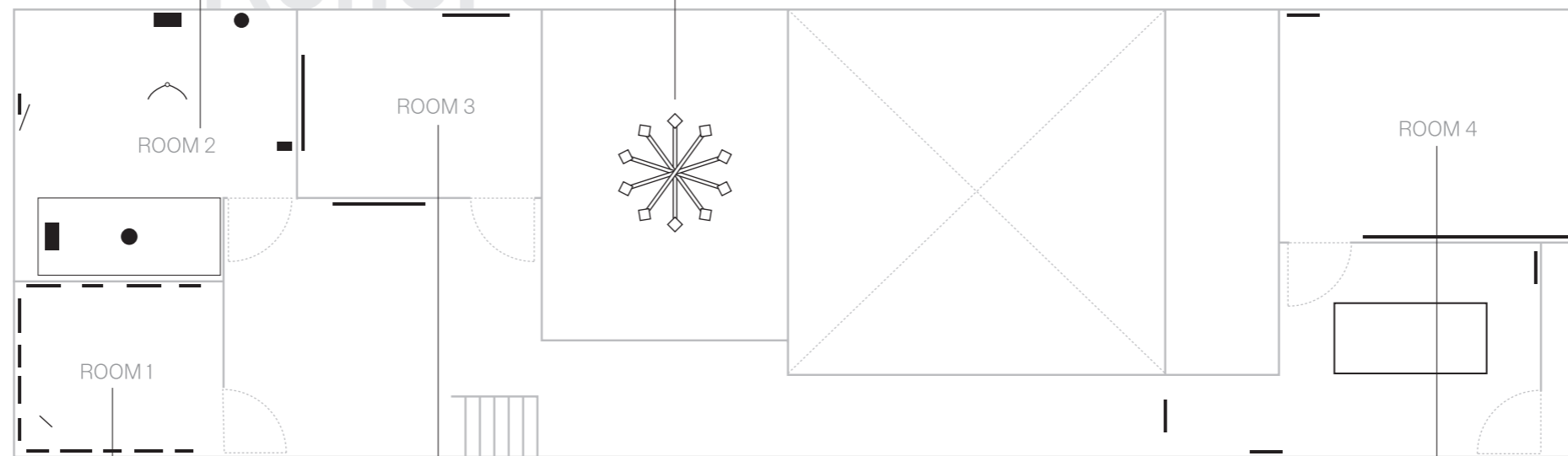
指南2 | 枕

*眠りのなかでイメージの交換が行なわれるのは、頭のなか。

指南3 | モノの位置への注意

*畏怖を引き起こす鍵は、モノと自分との位置関係にある。

2F
at KYOTO Art Hostel Kumagusuku



ROOM 1 同化の試み step3

「指南を経て、耕平同士が語る」

方法の次元で試みた同化を振り返り、耕平の制作態度の在り方に同化を探る。

ROOM 3 同化の試み step2

「小林の指南にもとづく同化の試み 高橋の場合」

指南1 | 畏怖を目撃している人を撮影する。

*畏怖はモノ自体に宿るのではなく、感覚の持ち主である人の側に由来する。

指南2 | 受け身。

*モノは私に帰属するのではなく、私の外に存在する。人間を超えたものからの頂き物としてとらえる。

ROOM 4 同化の試み step1

「畏怖を造形化するなかで、同化を試みる」

小林の場合「眠りのなかに持ち込む」

既製品を複数個、敷布団に詰め込んだものと、その既製品に対応したドローイングを壁面に並べたもの。

*布団の中のモノを見ることはできない。

背中にモノを感じながら、記憶したドローイングのイメージをもとに、眠りのなかで、そのモノに出会う。

眠りを介したモノとイメージ、言葉とイメージの交換。

眠りという孤島で、それらのモノだけで完結した世界に出会う。

高橋の場合「闇に浮かぶ断片」

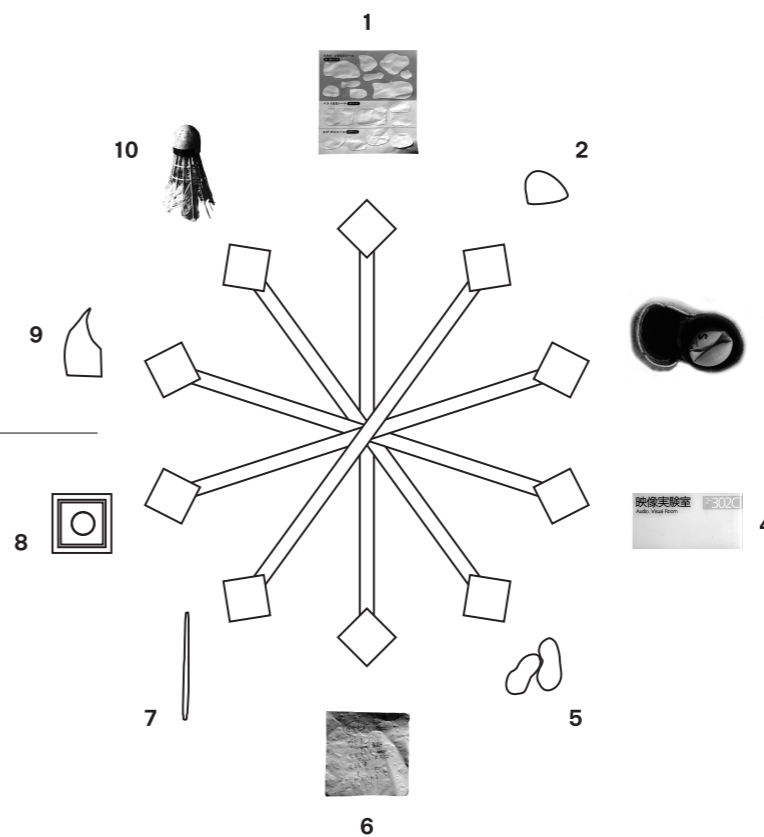
路上などで拾い集めた断片をセレクトし、夜中の路上、公園、林などに配置して、撮影したもの。

*取り残された断片には、もとの所有者の念が残っている。

何とも言えないこの感触は人間的なスケール。畏怖はこうした人間的なスケールを越えて到来する感覚の

はずである。有史以前の暗闇を想像してみる。

人間的な力に闇の力を付与してみる。



- 1 シール部分が剥がされ残った抜け殻
- 2 スプーン曲げでも曲がらない部分
- 3 民家の前にあった二種類の割れたボール
- 4 校舎建替えて不要になった実習室プレート
- 5 ピーナッツの代わり
- 6 書き手から、場所から剥がれた落ちた付箋
- 7 踏みつぶされたアルミ棒
- 8 兵庫県美横の公園にあったプラスチック
- 9 子供が割った玄関の硝子
- 10 二つのラケットの間にあるシャトル